

2017年度 B-P アワード 募 集 要 項

1. 趣旨 レンジャーバッジ取得に際して非常に優れたプロジェクトであり、バッジの取得によって得た知識・技術を活かしてガールスカウト活動をしていること、ならびに地域に根ざした“人への役立ち”の実践がきわめて優れ、世界市民として将来への展望が認められる取り組みをたたえるものとする。

2. 対象 レンジャーバッジを取得したレンジャースカウト
 〔および2017年春にレンジャーをフライアップした成人会員〕

3. 応募要件 (1) 「PLAN（企画）」「DO（実行）」「SEE（評価）」の一連の活動を通して、人に役立つレンジャープロジェクトに取り組んでいること。特に全国のレンジャースカウトの模範となるようなものであること。

 (2) 取り組みをまとめたレポートを作成すること。特に、次のことが分かりやすく示されていること。
 - ① プロジェクトに取り組んだ動機、目的、課題および課題に対する展望などを明確に示すこと。
 - ② 1つ1つの取り組みについてのPLAN・DO・SEEがあり、それらを活動ごとにまとめていること。
 - ③ “人への役立ち”の実践が地域社会で認められ、書面にて評価されていることが分かるようレポートに添付すること。
 - ④ 今後のガールスカウト活動および自らの人生において、世界市民としての視点をもってバッジ取得の経験をどのように活かしていくかの展望を示されていること。
 - ⑤ 単に1枚にまとめるものではなく、レンジャーバッジ取得の時のレポートを更にグレードアップさせること。

【別紙①】

4. 申請方法 次の内容について書類を作成し、都道府県連盟を通して、日本連盟に提出する。

【提出物】 都道府県連盟を通して提出すること ※は次ページに記載あり

1	レポート（印刷・インデックス付き）※ プロジェクトに取り組んだ経過を踏まえ、まとめたもの	1部
2	レポート※（データ。1ファイルが望ましい）	CD
3	「バッジ申請書」の写し	1部
4	団の推薦書 別紙②：【書式1】	1部
5	担当リーダーの記録 別紙②：【書式2】	1部
6	県連盟の推薦書（県連盟審査の結果を含む） 別紙③：【書式3】	1部

「レポートをデータで作成すること」の導入について

2015年度より、レポートをデータで作成・提出することについて、レンジャースカウトのスキル向上・ICTリテラシーを高めるためのひとつとして、導入いたしました。

スキル向上・ICTリテラシー向上は、21世紀に求められる資質・能力を意識した、ガールスカウトで育てたい力の中でも、必要な能力のひとつとして、考えています。

さまざまなツールを使いこなし、必要な情報にアクセスし、その有用性を判断できること、クオリティの高い情報を、道具（パソコンやインターネットを含）を使いこなし、世の中に発信していくことは、これから必要不可欠となります。

その一歩として、レポートのデータ作成を導入致しました。参考として、「女の子はもっと伸びる」（2014年3月発行）・「女の子はもっと伸びる」調査報告書補助資料（2014年9月発行）もご参照ください。

団内の指導者で、助言が難しい場合は、県連盟内で助言できる指導者の力も借り、少女の能力が、より向上するようご支援ください。

ICT：情報（Information）通信（Communication）に関する技術（Technology）一般の総称

リテラシー：何らかの表現されたものを、適切に理解・解釈し、分析し、記述・表現する能力のこと

※レポートについて

□形式

- ・ A4 用紙縦置き、横書き Microsoft Word で、作成する
- ・ 既に手書きなどで作成された箇所については、スキャンする等して 1 ファイルにする
- ・ 目次機能を使用する

(分からない場合は、インターネットで検索する等して工夫する。検索時に「ワード 目次」と入力すると作成サポートページが見つかります)

□使用するフォント・フォントサイズ

- 表紙・裏表紙・・・MS ゴシック 36point / 英数 Arial 36point
- 表題・・・・・・・・MS ゴシック 14point / 英数 Arial 14point
- 本文・・・・・・・・MS 明朝 12point / 英数 Times New Roman 12point

□印刷し提出するレポートの体裁

表紙・裏表紙・目次・本文・インデックス・写真・参考資料をつけて、人に伝えられる成果書として 1 冊にまとめる

□データ提出するレポートについて

- ・ CD に焼き、印刷したレポートとともに郵送で提出
- ・ 表紙・裏表紙・目次・本文・写真・参考資料（冊子の様に枚数が多いものは表紙のみスキャン）を 1 ファイルにし、ファイル名「2017B-P アワードレポート_●●県_氏名」とする

5. 提出締切 2018 年 1 月 10 日（水）日本連盟必着

6. 審査結果 2018 年 3 月予定

- ・ 推薦のあった県連盟の県連盟長宛に通知するとともに、受賞者については機関誌・ホームページ（電子ブック化含）等にて紹介する。
- ・ ただし、審査の結果、再提出とする場合もある。

7. 備考

- ・ 2017 年春にレンジャー部門をフライアップしたガールスカウトの場合、同年 8 月末日までに団のリーダーに提出して、取得したレンジャーバッジの活動も対象とする。
- ・ 2016 年度までは、個人申請、グループ申請が選択可能であったが、2017 年度より、複数の少女がチームで取り組んだプロジェクトであっても、B-P アワードの申請を希望する少女が個々に申請をおこなう個人申請のみとする。チームで取り組んだプロジェクトを申請する場合、共通の情報については、各々のレポートに使用可とする。

【別紙①】

8. その他
- ・提出したレポート（参考資料含）が、B-P アワードを受賞した場合、レポートは、スカウトの室に展示する。
 - ・電子ブック化し、日本連盟のホームページに掲載する。
（受賞後、レポート一式の権利はガールスカウト日本連盟に帰属する）
 - ・取組みの中で、評価等にご協力いただく方には、受賞された場合、お名前が記載されたレポートが展示、およびホームページに掲載されることをあらかじめお伝えし、承諾を得ること。
 - ・ホームページへの掲載は、会員のみが閲覧できるページに掲載を予定。
 - ・受賞しなかったレポートは返却する。
9. 参考
- 公益社団法人ガールスカウト日本連盟 B-P アワード審査会の審査基準は次ページの通りとする。

2017年度 B-P アワード 審査基準 《参考》

項目	評価のポイント
目的やねらいなどの設定	プロジェクトへの取り組みにおいて、目的・目標・ねらいを明確に設定しているか
課題への取り組み方	自らの課題を見出し、的確にとらえて計画をしているか
	自分なりによく考えた工夫のあとが見られるか
	自ら見出した課題への取り組みから、新たな課題の発見があるか
	1回1回の活動を記録するレポートから課題への取り組みが読み取れるか
“人への役立ち”の実践	プロジェクトを計画する時に“人への役立ち”を入れたものであったか
	1回1回の活動の中に“人への役立ち”の実践と、本人の考察がみられるか
	自己の役割と成長の様子を見ることはできるか
	実践が地域社会で認められ、書面にて評価されていること
レポートの構成	上記の「目的やねらいなどの設定」「課題への取り組み方」「“人への役立ち”の実践」が明確に記述されているか
	活動レポートが時系列にまとめられているか（活動回数分のレポートが揃っていること）
レポートの形式	別紙① 4. 申請方法に記載のある「レポートの形式」であること
※資料および印刷物の扱い	インデックスなどを付けて、第三者が読んでもよく分かるようにしているか
	資料の出典・参考文献などを明らかにしているか
レンジャーバッジ取得後の展望	今後のガールスカウト運動や自分の将来に、レンジャーバッジ取得の取り組みの経験を活かせる展望が含まれているか

以上